

日本科学 飼料協会

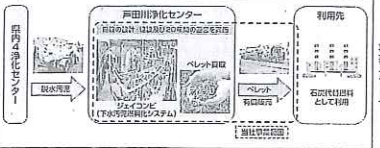
廃食用油再生で認証制度

処理法踏まえ、安全確保

飼料用脂の安全を確保した廃食用油をマヨネーズやドレッシングなどに活用する「廃食用油再生」の認証制度が、日本科学飼料協会(以下、協会)と、廃食用油再生協会(以下、協会)が共同で導入する。この制度は、廃食用油の再生処理工程を厳格に管理し、再生された廃食用油の品質を確保することを目的としている。また、再生された廃食用油の品質を確保するために、再生処理工程の認証制度を導入する。この制度は、再生された廃食用油の品質を確保するために、再生処理工程の認証制度を導入する。この制度は、再生された廃食用油の品質を確保するために、再生処理工程の認証制度を導入する。

広島県で下水汚泥燃料化

新日鉄住金エンジニア、消化ガスも熱源利用



広島県が、下水汚泥の燃料化事業を推進し、下水汚泥を燃料として利用する。この事業は、下水汚泥処理センターで下水汚泥を焼却し、消化ガスを熱源として利用する。また、焼却後の灰を灰処理施設で処理する。この事業は、下水汚泥の資源化と環境負荷の低減に貢献する。また、焼却後の灰を灰処理施設で処理する。この事業は、下水汚泥の資源化と環境負荷の低減に貢献する。

パレスホテル立川

東京都立川市にあるパレスホテル立川が、2014年に有機肥料を製造する。この肥料は、ホテルの緑化に使用される。また、この肥料は、地域の農業にも活用される。この事業は、ホテルの環境負荷の低減と地域の農業の発展に貢献する。また、この肥料は、地域の農業にも活用される。この事業は、ホテルの環境負荷の低減と地域の農業の発展に貢献する。

地元産循環野菜が好評

01年から発酵機稼働。地元産の野菜が好評。この野菜は、地元産の野菜を使用した発酵食品である。この食品は、健康に良いと評判である。また、この食品は、地元産の野菜を使用した発酵食品である。この食品は、健康に良いと評判である。また、この食品は、地元産の野菜を使用した発酵食品である。この食品は、健康に良いと評判である。



廃食用油再生の認証制度。この制度は、再生された廃食用油の品質を確保するために、再生処理工程の認証制度を導入する。この制度は、再生された廃食用油の品質を確保するために、再生処理工程の認証制度を導入する。この制度は、再生された廃食用油の品質を確保するために、再生処理工程の認証制度を導入する。

チップ需要増と技術力。チップ需要が増加している。これは、木材のチップ需要が増加しているためである。また、チップ需要が増加している。これは、木材のチップ需要が増加しているためである。また、チップ需要が増加している。これは、木材のチップ需要が増加しているためである。

燃料化事業推進。燃料化事業を推進している。これは、下水汚泥の燃料化事業を推進しているためである。また、燃料化事業を推進している。これは、下水汚泥の燃料化事業を推進しているためである。また、燃料化事業を推進している。これは、下水汚泥の燃料化事業を推進しているためである。

水質Bの取組。水質Bの取組を行っている。これは、水質Bの取組を行っているためである。また、水質Bの取組を行っている。これは、水質Bの取組を行っているためである。また、水質Bの取組を行っている。これは、水質Bの取組を行っているためである。

BDP発電実証実験を開始。BDP発電実証実験を開始している。これは、BDP発電実証実験を開始しているためである。また、BDP発電実証実験を開始している。これは、BDP発電実証実験を開始しているためである。また、BDP発電実証実験を開始している。これは、BDP発電実証実験を開始しているためである。

自家発電設備設置。自家発電設備を設置している。これは、自家発電設備を設置しているためである。また、自家発電設備を設置している。これは、自家発電設備を設置しているためである。また、自家発電設備を設置している。これは、自家発電設備を設置しているためである。

コーンネット事業開始。コーンネット事業を開始している。これは、コーンネット事業を開始しているためである。また、コーンネット事業を開始している。これは、コーンネット事業を開始しているためである。また、コーンネット事業を開始している。これは、コーンネット事業を開始しているためである。

自家発電設備設置。自家発電設備を設置している。これは、自家発電設備を設置しているためである。また、自家発電設備を設置している。これは、自家発電設備を設置しているためである。また、自家発電設備を設置している。これは、自家発電設備を設置しているためである。

KOBELCO

コベルコは、熱くならない。

廃棄物の中間処理現場で活躍する機械にとって、稼働停止は余儀なくされるオーバーヒートの発生は、最も避けたいトラブルのひとつ。そこでコベルコの後方超小容量型資源ハンドリング機械。独自のエンジン冷却システムINDRの優れた防じん機能が、オーバーヒートの原因となる冷却機構の目詰まりを防止。過熱による故障トラブルが発生しにくく、長時間の連続作業も安心して行えます。

オーバーヒートに強い独自の構造、INDR。

コベルコの資源ハンドリング機械

SK75SRD SK135SRD SK135SRDLC SK235SRD SK235SRDLC

コベルコ建設株式会社

東京本社/〒141-8626 東京都品川区東五反田2-17-1 ☎03-5789-2111

第3回連載広告

RPFは環境にやさしい化石燃料代替燃料として、エネルギーリカバリーによる循環型社会の構築に貢献します。

現在の社会の要請は①地球温暖化対策としてCO₂排出量の削減、②原子力に代わるエネルギー源の確保、③エネルギー源輸入増加による貿易収支の改善などです。固形燃料RPFは発電利用を含め広く国内産業界で効率的に利用されています(一例ではボイラ効率75%、エネルギー利用率96%)。また、同じカロリーを得るのにRPFを使用した場合には、石炭を利用した場合に比べCO₂排出量は約33%削減されます。そして、RPFを利用する分は確実に輸入化石燃料の使用量が削減され、国内産固形燃料RPFは環境負荷と共に貿易収支の改善にも貢献しています。

「リサイクル(元に戻す)」、「エネルギーリカバリー(価値のない廃棄物を有効利用し価値を再生する)」という言葉が常用されています。再材料化が困難な廃棄物を、多くの手間とエネルギーとコストをかけて元の材料に戻すのではなく、無用なく利用価値を生み出す「リカバリー」も循環型社会構築の有益な手段です。高効率でリカバリー(廃棄資源の価値回復)を実現する固形燃料RPFの利用は、まさに日本流の「エネルギーリカバリー」です。

JRPF 一般社団法人 日本RPF工業会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-2 高梨ビル2階
TEL:03-6206-8000 FAX:03-5296-0303